

栃木県が4月に新設した、新卒者らの若者をはじめ、中高年・障がい者など幅広く就労をサポートする「とちぎジョブモール」が好評を博している。公明党の谷合正明青年委員長（参院議員）と石川

博崇学生局長（同）は先ごろ、同施設を視察し、関係者と意見を交換した。これには、ジョブモール開設を推進した西村眞治党県青年局長（県議）のほか、同青年局のメンバーらが同席した。

# 若者の就労を応援

## とちぎジョブモール

### ワンストップの相談施設が好評

#### 栃木県

宇都宮市のJR宇都宮駅前に設置されている「とちぎジョブモール」は、国の緊急雇用創出事業を活用してできた「とちぎ求職者総合支援センター」が昨年度末で閉鎖したことを受け、県単独事業の「ジョブカフェとちぎ」を発展させ、厚生労働省の栃木労働局の協力を得て開設したもの。



担当者から説明を受ける（右から）谷合、石川の両氏と西村県議、党栃木県本部青年局のメンバーら

総合的な相談の受け付けをはじめ、職業紹介から就職・定着支援に至るまで、ワンストップでサ

ハローワーク」（1階）や「ハローワーク宇都宮駅前プラザ」（2階）も活用する。

オープン以来の利用者は延べ8322人（7月末現在）。年齢別利用者数では、20代が5292人と全体の6割以上を占めている。

20代の利用者からは、「就職活動では、なかなか一歩踏み出せなかったが、相談員と話して目標が定まり、最終的に就職することができた」「履歴書の添削や面接指導などを受けて、就職活動でも緊張することなく自分の意思を伝えることができた」といった声が寄せられている。

また、栃木労働局は6月、県内の8大学・6短大（医学部がある大学を除く）をはじめ高等専門学校や大学校、一般社団法人・栃木県専修学校各種学校連合会などと就職情報交換会を開催した。同労働局によると、こうした取り組みは全国初と

公明党の谷合青年委員長と石川学生局長らは、ジョブモールやハローワークを訪れ、栃木労働局や県労働政策課の職員らと意見を交換した。

## 6割以上が20代の利用者

谷合、石川氏が視察

### 大学とも連携し、垣根低く

ポートする。

職業紹介時には栃木労働局と連携し、同じ建物にある「宇都宮新卒応援

視察を終えた谷合氏は「国と地方の連携が大切だ。社会保障と税の一体改革の中でも、雇用は重要なテーマ。党青年委員会としても引き続き取り組んでいく」と語り、今後の青年層の雇用対策への決意を新たに示した。

いう。

ジョブモール開設に当たっては、西村県議が昨年12月定例会で「とちぎ求職者総合支援センター」閉鎖後の就労支援体制の具体化を迫るなど、県の取り組みを促してきた。また、若年者をはじめとした雇用対策については、党栃木県議会議員会（山口恒夫会長）が、県に対する予算要望書に盛り込むなど積極的に後押ししてきた。